

進行および企画の趣旨

時間 9 : 4 5 ~ 1 2 : 0 0

1. 論争の概説・経緯： 水本 10分
2. 発表：
前田 25分
三浦 25分
水本 25分
3. コメント： 金杉 20分
4. 質疑応答： 30分

企画の趣旨：

ゾンビは可能である、少なくとも思惟可能である、と認める哲学者は多い。だが、一旦それを認めてしまえば、その代償は大きい。特に物理主義者にとっては、それは自殺行為ではないだろうか。ゾンビが可能であるように思えるのは、単に見かけだけであり、実はそこにはすでに論理的矛盾がある、と水本は「点滅論法」を提示することで主張した（2006, 2010）。それに対し、三浦（2008, 2011）、および三浦・柴田（2011）は点滅論法の議論に誤りがあると主張したが、水本・前田（2013）は、むしろ彼らの批判こそが誤謬に基づいていると指摘した。実際彼らの批判は（私的やり取りの中で）初歩的な論理的誤りに基づいていることが判明したが、三浦はまだ納得していないようである。

このワークショップは、第一義的には、ここまでの論争を振り返り、論争に決着をつけるべく、当事者が最終弁論を行うとともに、当事者以外の客観的な立場からそれぞれを評価・判断してもらおうとするものである。だがそれだけに留まらず、この論争によって呼び起こされる、正しい哲学的な論争はどうあるべきか（知的誠実さ、論理的正しさ、私的／公的な場の区別）、哲学的な論争の決着とはどのようなものになるべきか（多数決？）、哲学における思考実験の意味とは、そもそも哲学的な論争に意味はあるのか、といったメタ哲学的な問いをも視野に入れた議論を行いたい。